

資料配布の場所

1. 国土交通記者会
 2. 国土交通省建設専門紙記者会
 3. 国土交通省交通運輸記者会
 4. 筑波研究学園都市記者会
- 平成29年2月7日同時配布

平成29年2月7日
水管理・国土保全局下水道部
国土技術政策総合研究所

都市における浸水対策施設運用支援技術をガイドライン化 ～ICTを活用したリアルタイムの浸水予測により「i-Gesuido」を推進します～

国土交通省は、「ICTを活用した浸水対策施設運用支援システム」について、平成26年度より広島市で実証を進め、実証フィールドでは浸水面積を約14%削減できることが確認できました。その成果を踏まえ、国土技術政策総合研究所は、平成29年2月7日に本技術の導入ガイドライン（案）を策定しました。

本技術は、降雨や下水管内水位等の情報を、ICTを活用してリアルタイムに収集、予測、提供する統合システムを構築し既存の下水道施設を効果的に運用するための技術です。i-Gesuidoを支える技術の1つとして普及促進を図ってまいります。

1. 背景・経緯

近年頻発している都市部での浸水被害について、多くの費用と期間を要するハード対策では早急な対応が難しいのが現状です。一方、都市内に整備された既存の下水道施設を最大限に活用することで被害軽減を図ることが可能です。そのためには、都市内の降雨状況や下水管内水位等をリアルタイムに収集、予測、提供することにより既存施設を効果的に運用できる技術が必要になります。

そこで、国土交通省では、下水道革新的技術実証事業（B-DASHプロジェクト※）として、「ICTを活用した浸水対策施設運用支援システム実用化に関する実証研究」を平成26年度より実施し、その成果をガイドラインにまとめました。

※B-DASHプロジェクト：Breakthrough by Dynamic Approach in Sewage High Technology Project

下水道における新技術について、国土技術政策総合研究所の委託研究として、民間企業、地方公共団体、大学等が連携して行う実規模レベルの実証研究

2. 本ガイドライン（案）の公開

・ICTを活用した浸水対策施設運用支援システム導入ガイドライン（案）

本ガイドライン（案）は、下水道事業者が本技術の導入を検討する際に参考にできるよう、技術の概要、導入効果、導入検討、運用・維持管理等に関する技術的事項についてとりまとめています。また、本ガイドライン（案）は、国土技術政策総合研究所ホームページ（<http://www.nilim.go.jp/lab/ebg/b-dash.html>）で公開しています。

※本技術は、国土交通省が推進しているICTの活用により下水道事業の「持続」と「進化」を実践するi-Gesuidoの「雨水管理スマート化2.0」を支える技術の1つとして、普及促進を図ってまいります。

3. 本技術の概要及び効果（別紙参照）

（問い合わせ先）

○B-DASHプロジェクト及び技術の普及展開について

国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部 下水道企画課

課長補佐 安田 将広、環境技術係長 中島 智彦

TEL：03-5253-8427 FAX：03-5253-1596

○ガイドラインの内容について

国土技術政策総合研究所 下水道研究部 下水道研究室

室長 横田 敏宏、主任研究官 松浦 達郎

TEL：029-864-4762 FAX：029-864-2817

經費回收年

(参考)下水道革新的技術実証事業(B-DASHプロジェクト)の概要

概要

- ◆下水道における省エネ・創エネ化の推進を加速するためには、低コストで高効率な革新的技術が必要。
- ◆特に、革新的なエネルギー利用技術等について、国が主体となって、実規模レベルの施設を設置して技術的な検証を行い、技術導入ガイドライン(案)を作成し全国展開。
- ◆新技術のノウハウ蓄積や一般化・標準化等を進め、海外普及展開を見据えた水ビジネスの国際競争力強化も推進。

革新的技術の全国展開の流れ

民間企業

- 新技術の開発(パイロットプラント規模)

＜地方公共団体＞
一般化されていない技術の採用に対して躊躇

国土交通省(B-DASHプロジェクト)

- 新技術を実規模レベルにて実証
(実際の下水処理場に施設を設置)
- 新技術を一般化し、技術導入ガイドライン(案)を作成

＜国土交通省＞
社会資本整備総合交付金を活用し導入支援

民間活力による全国展開

地方公共団体

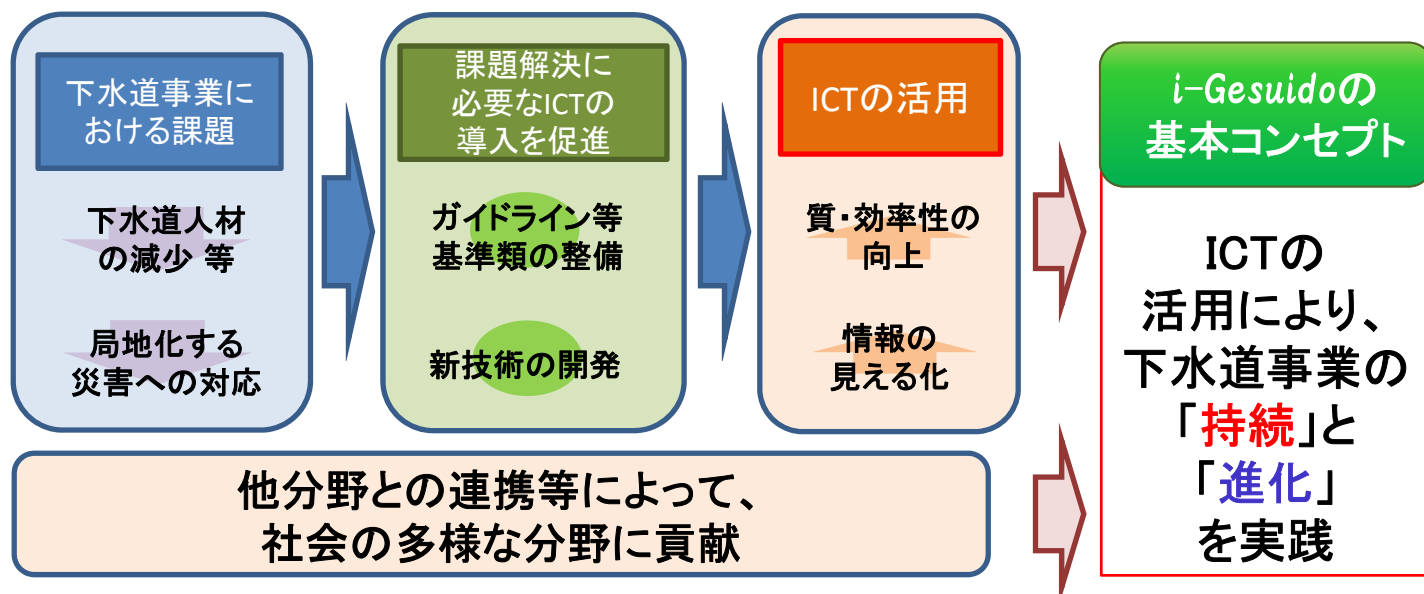
- 全国の下水処理施設へ新技術を導入

実施中のテーマ

- ◆H27年度から実施中
 - ・複数の下水処理場からバイオガスを効率的に集約・活用する技術
 - ・バイオガスからCO₂を分離・回収・活用する技術
 - ・都市域における局所的集中豪雨に対する降雨及び浸水予測技術
 - ・設備劣化診断技術
 - ・下水管路に起因する道路陥没の兆候を検知可能な技術
 - ・下水処理水の再生利用技術
- ◆H28年度から実施中
 - ・中小規模処理場を対象とした下水汚泥の有効利用技術
 - ・ダウンサイジング可能な水処理技術

(参考) i-Gesuidoの概要

- 国土交通省では、下水道事業の抱える様々な課題に対して、ICTの活用による下水道事業の質・効率性の向上や情報の見える化を行い、下水道事業の「持続」と「進化」を実践。その取組を「**i-Gesuido**」として推進。
- i-Gesuidoでは、既存のICTを各地方公共団体において積極的に導入できるよう、ガイドライン等基準類の整備を行うとともに、関係する技術の開発を推進するなど、下水道事業におけるICTの導入を促進。



- i-Gesuidoの推進に当たっては、ICTを活用して効率的な事業実施が可能な4本の柱を中心に施策を展開し、より効率的な下水道事業とすることを目指す。
- また、ICTを活用して他分野と連携する取組等についても今後検討し、社会の多様な分野に貢献。

